

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	肺病変を伴う原発性シェーグレン症候群における臨床経過や予後予測因子に関する研究
研究責任者	浜松医科大学内科学第二講座 須田隆文 (当院研究責任者:呼吸器内科 中村秀範)
研究実施体制	研究責任施設: 浜松医科大学 内科学第二講座 共同研究施設: 聖隷浜松病院 呼吸器内科、聖隷三方原病院 呼吸器内科、磐田市立総合病院 呼吸器内科
研究期間	平成 29 年 11 月 1 日 ~ 平成 34 年 10 月 31 日
対象者	1990~2017 年に関連施設の呼吸器内科に通院あるいは入院した肺病変を伴う原発性シェーグレン症候群患者
研究の意義・目的	<p>シェーグレン症候群は主として中年女性に好発する涙腺と唾液腺を主に標的とし、種々の臓器病変を伴う自己免疫疾患である。慢性唾液腺炎と乾燥性角結膜炎を主徴とし、多彩な自己抗体の出現や高ガンマグロブリン血症を来す。</p> <p>シェーグレン症候群は他の膠原病の合併がみられない原発性シェーグレン症候群(primary sjögrens syndrome, pSS)と関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの膠原病を合併する二次性シェーグレン症候群とに大別される。pSS の中で、肺病変は、9%~75%の有病率を有する最も一般的な腺外合併症の 1 つである。肺病変を有する pSS 患者は、肺病変のない患者と比較して死亡リスクが高いといった報告もある。特に間質性肺疾患(interstitial lung diseases, ILD)は pSS の肺病変として最も高頻度であり、ILD を合併しない pSS と比較して予後不良であることが報告されている。しかしながら、pSS-ILD に関して多数例を解析した報告は少なく、臨床経過や治療反応性、予後因子等はいまだ明らかにされていない。</p>
研究の方法	研究デザイン 多施設共同後ろ向き研究 方法 診療時、経過中に施行された血液検査値や呼吸機能検査値、画像所見を用いて、疾患活動性・治療反応性・予後との関連を解析する。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

係る手続き	
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 呼吸器内科 (氏名) 河野 雅人 TEL:053-474-2222(代表) 呼吸器内科外来 9:00~17:00 平日